

平成 24 年度「株式学習ゲーム」の実施状況と 参加校からのアンケート調査結果について

日 本 証 券 業 協 会
東 京 証 券 取 引 所

「株式学習ゲーム」は、中学生・高校生を主な対象として、株式の模擬売買を通じて現実の生きた経済や市場の動きを身近に感じながら、経済の動きや社会の仕組みなどについて体験的に学習するプログラムとして、日本証券業協会、東京証券取引所が学校向けに提供している教材である。

1. 実施状況

(1) 参加校数・参加生徒数など

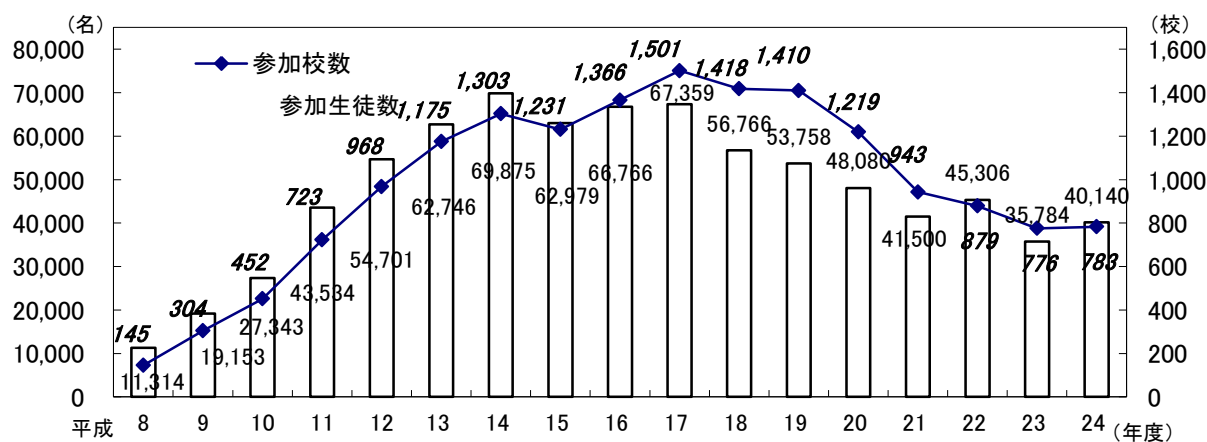
平成 24 年度の合計参加校数は前年度（776 校）よりわずかに増加し、全国で 783 校となった。また、参加人数についても前年度（35,784 人）から増加し、40,140 人となった。

（第 1 表）参加校数・参加生徒数（春季・秋季・冬季別）

実施期間※	参加方式	参加校数(校)	参加生徒数(名)
春 季 (平成 24 年 4 月 9 日～7 月 20 日)	マークシート方式	27	1,997
	インターネット方式	165	8,331
	(両方式計)	192	10,328
秋 季 (平成 24 年 9 月 3 日～12 月 14 日)	マークシート方式	55	4,052
	インターネット方式	306	16,081
	(両方式計)	361	20,133
冬 季 (平成 25 年 1 月 7 日～2 月 28 日)	マークシート方式	30	1,888
	インターネット方式	200	7,791
	(両方式計)	230	9,679
年間合計	マークシート方式	112	7,937
	インターネット方式	671	32,203
総 合 計	(両方式合計)	783	40,140

※各季期間はマークシート方式のもの

（第 1 図）参加校数・参加生徒数の推移



※1 平成14年度以降はインターネット方式が併行導入されたため、従来方式のマークシート方式と合算した数字となっている。

※2 平成17年度に複数学期にまたがって参加した学校の集計方法について見直しを行った結果、平成14～16年度の数字が一部修正となった。

参加校（783 校）の内訳は、高等学校 47.4%（371 校）と最も多く、次いで中学校が 26.8%（210 校）、大学 19.9%（156 校）、短大 1.5%（12 校）その他の学校等が 4.3%（34 校）だった。

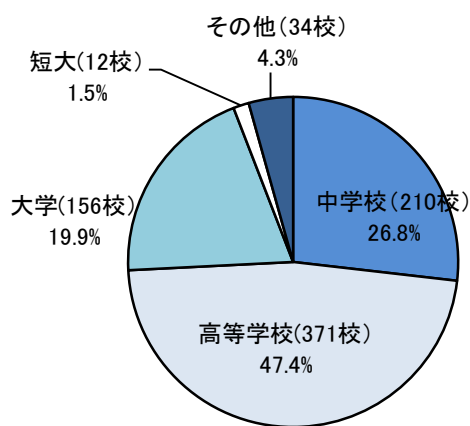
ちなみに、前年度（776 校）の内訳は、高等学校 42.7%（331 校）、中学校が 39.2%（304 校）、大学 13.9%（108 校）、短大 1.4%（11 校）その他の学校等が 2.8%（22 校）だった。

前年度と比べて、中学校は 94 校減（30.9%減）と大幅に減少したものの、大学では 48 校増（44.4%増）と大幅に増加した。中学校での減少の理由としては、新学習指導要領への移行に伴う実施時数の確保難などが挙げられる。大学では、就職活動の激化から、企業研究の一環として株式学習ゲームを授業に取り入れるようになり、参加校が増加したと考えられる。

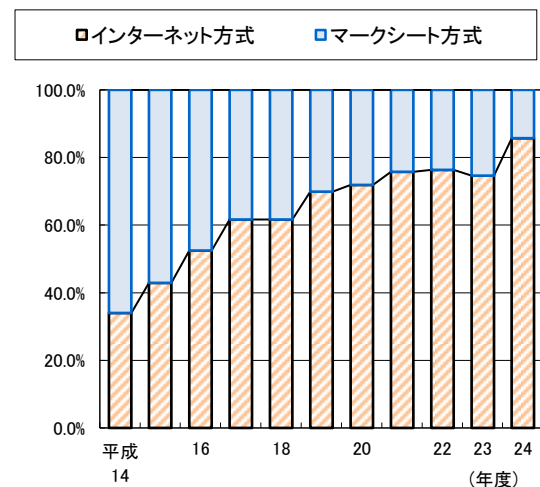
また、期間別の参加校数の内訳は、春季 24.5%（192 校）、秋季 46.1%（361 校）、冬季 29.4%（230 校）となっている。

なお、平成 14 年度より導入したインターネット方式による参加比率は 85.7%（全参加校 783 校のうち 671 校）となり、去年に比べて増加した（昨年度 74.6%）。昨年度からインターネット方式が、スマートフォンによる取引に対応したことで、学校のパソコン室等を使わずとも、生徒各自がスマートフォンで取引することが可能になったことが要因の 1 つとして考えられる。

（第 2 図）参加校（783 校）の内訳



（第 3 図）方式別の参加比率の推移



（２）売買の傾向

平成 24 年度（3 期間合計）において、売買回数の最も多かった銘柄はソフトバンクだった。

以下、2 位ローソン、3 位任天堂、4 位オリエンタルランド、5 位グリー、6 位セブン&アイ・ホールディングス、7 位トヨタ自動車、8 位カルビー、9 位ドン・キホーテ、10 位しまむらの順となった。

例年と同様に、ゲーム関連会社や携帯電話会社などのほか、コンビニエンスストアやテーマパークなど、生徒にとって身近であったり、知名度の高い会社の売買回数が多かった。

（第 2 表）売買回数の多い銘柄一覧（過去 3 年分）

順位	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
1 位	ソフトバンク	グリー	ソフトバンク
2 位	任天堂	ソフトバンク	ローソン
3 位	ソニー	ソニー	任天堂
4 位	グリー	任天堂	オリエンタルランド
5 位	ドン・キホーテ	サンリオ	グリー
6 位	カブコン	ローソン	セブン&アイ・ホールディングス
7 位	オリエンタルランド	オリエンタルランド	トヨタ自動車
8 位	ヤフー	ドン・キホーテ	カルビー
9 位	トヨタ自動車	しまむら	ドン・キホーテ
10 位	パナソニック	KDDI	しまむら

2. アンケート調査結果

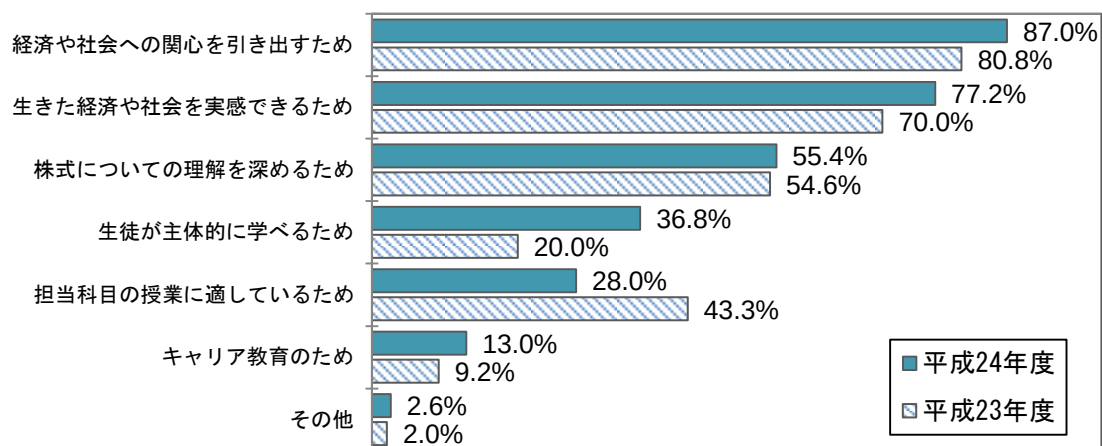
毎年、株式学習ゲームの終了後、参加した学校の先生方を対象にアンケート調査を実施している。平成24年度は194校（中学校65校、高等学校87校、大学その他42校）から回答を得た。回答内容等の詳細については、以下のとおりである。

（1）株式学習ゲームを教材として導入した理由について（複数回答）【回答数193校】

本教材を導入した理由について尋ねたところ、前年度と同様「経済や社会への関心を引き出すため」という回答が87.0%（168校）と最も多かった。

次いで、「生きた経済や社会を実感できるため」77.2%（149校）、「株式についての理解を深めるため」55.4%（107校）、「生徒が主体的に学べるため」36.8%（71校）、「担当科目の授業に適しているため」28.0%（54校）、「キャリア教育のため」13.0%（25校）などが挙げられた。そのほかでは、主に大学を中心に「企業を評価する能力養成のため」「就活支援」といった回答も寄せられた。

（第4図）教材として導入した理由



（2）実施した授業科目について（複数回答）

実施した授業科目について尋ねたところ、中学校（回答数65校）では、ほとんどが「社会（公民分野）」89.2%（58校）で、一部「選択社会」6.2%（4校）で導入する学校が見られた。

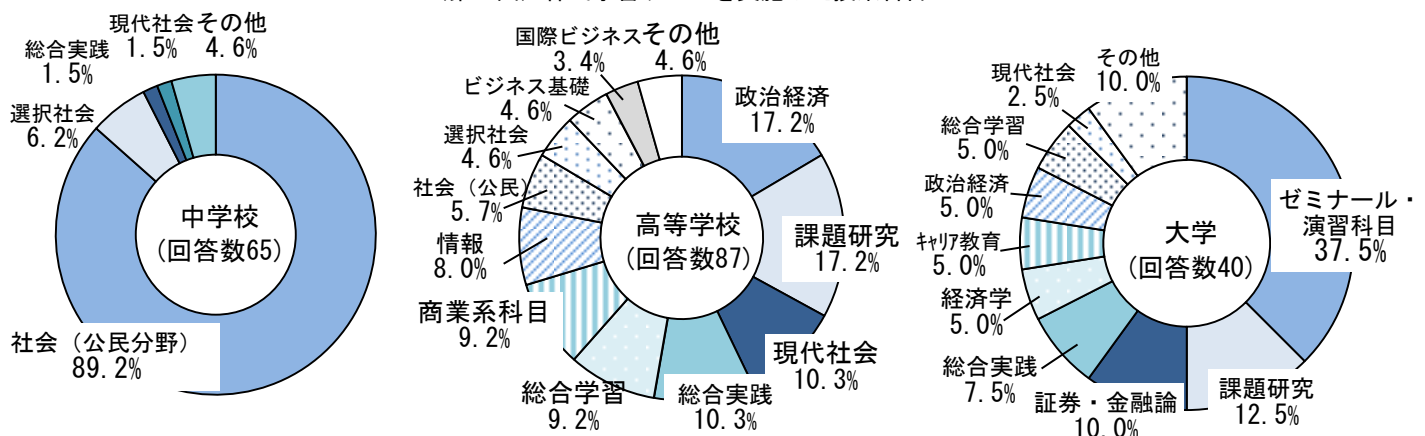
一方、高等学校（回答数87校）では、「政治・経済」と「課題研究」の授業での実施が17.2%（15校）と最も多く、これに、「現代社会」、「総合実践」ともに10.3%（9校）が続いた。また、商業系・ビジネス系科目¹で導入したと答えた学校が高等学校全体の17.2%（15校）あった。

授業科目については、割合について比較すると、中学校で「選択社会」が19.8%（18校）から6.2%（4校）にまで減少した一方で、「社会（公民分野）」が76.9%（70校）から89.2%（58校）に増加した。

大学（回答数40校）では、「その他²」67.5%（27校）が半数以上を占める結果となったが、そのうちゼミナールや演習科目で取り入れたとの回答が、大学全体の37.5%（15校）となり、最も多い割合となった。

- 〔¹ 下図（中央）「商学系科目」「ビジネス基礎」「国際ビジネス」を含む。
² 下図（右）「ゼミナール・演習科目」「証券・金融論」「経済学」「キャリア教育」「その他」を含む。〕

（第5図）株式学習ゲームを実施した授業科目

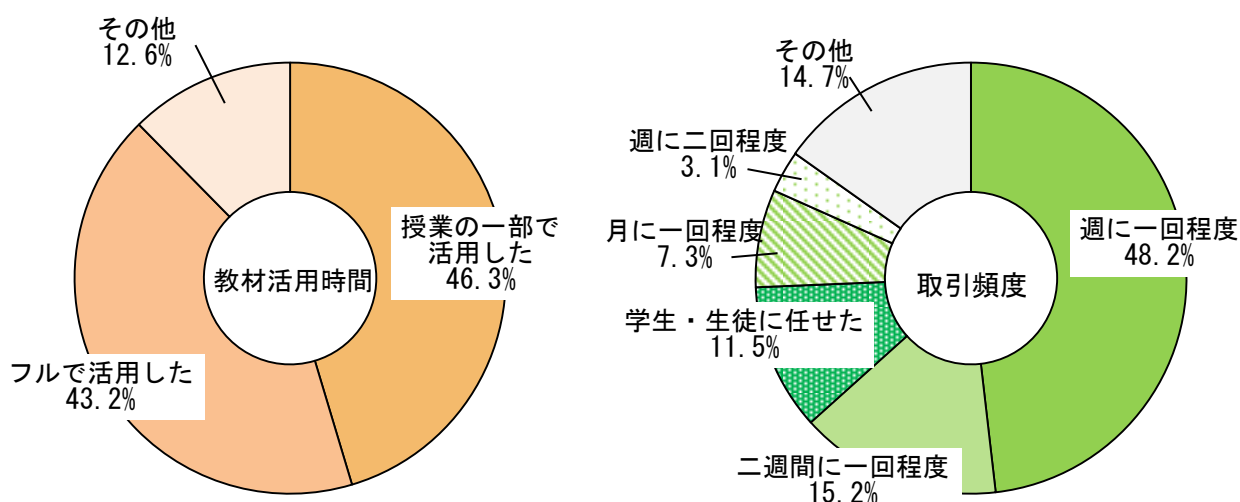


（３）株式学習ゲームの活用時間と取引頻度について

一回の授業時間のうち、本教材をどの程度活用したかを尋ねたところ（複数回答・回答数 190 校）、「授業時間のうち一部で活用した」という学校が最も多く 46.3%（88 校）、次いで「授業時間を全て活用した」との回答が 43.2%（82 校）となった。そのほかの回答として「各個人で自由に組みませ、経済事情の変化に応じてその都度授業に取り入れた」、「2 時間ほど授業で導入の説明を行い、その後は授業時間外で自由に取引させた」などがあった。

また、取引頻度について（回答数 191 校）は、「週に一回程度」が 48.2%（92 校）と最も多く、次いで「二週間に一回程度」が 15.2%（29 校）、「生徒・学生に任せた」が 11.5%（22 校）、「月に一回程度」が 7.3%（14 校）、「週に二回程度」が 3.1%（6 校）で、「その他」（授業時間の都合であまり参加できなかった、等）が 14.7%（28 校）あった。

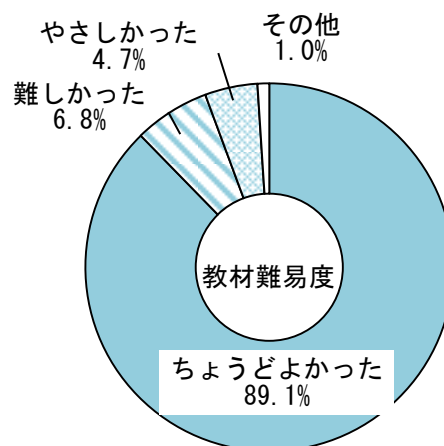
（第 6 図）株式学習ゲームの活用時間（左）と取引頻度（右）



（４）株式学習ゲームの難易度について（複数回答）【回答数 192 校】

本教材の難易度について尋ねたところ、「ちょうどよかった」と回答した学校が 89.1%（171 校）と最も多かったが、「難しかった」と答えた学校も 6.8%（13 校）あった。その理由として「株価が変動する理由が教えにくかった」や「会社四季報の読み方、企業欄内の語句が生徒には難しい」といったことが挙げられた。また、「やさしかった」と答えた学校は 4.7%（9 校）あった。

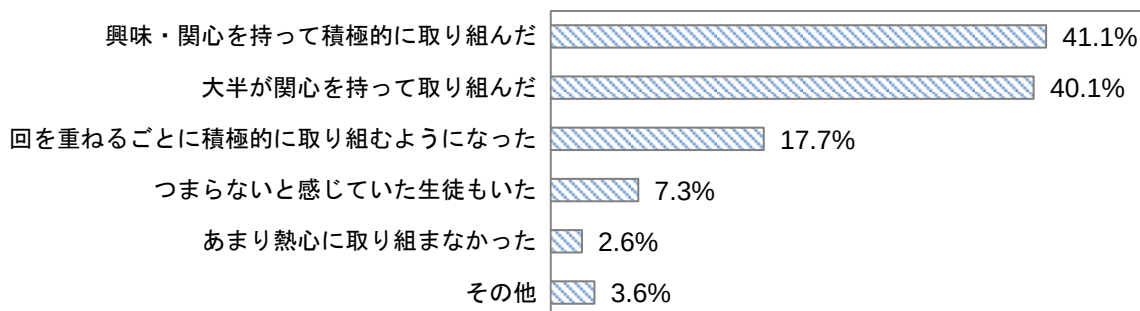
（第 7 図）株式学習ゲームの難易度について



（５）生徒の取り組み姿勢について（複数回答）【回答数 192 校】

生徒の取り組み姿勢について尋ねたところ、最も多かったのは「興味・関心を持って積極的に取り組んだ」という回答で 41.1%（79 校）だった。以下、「大半が関心を持って取り組んだ」40.1%（77 校）、「回を重ねるごとに積極的に取り組むようになった」17.7%（34 校）、「つまらないと感じていた生徒もいた」7.3%（14 校）などの順だった。

（第 8 図）生徒の取り組み姿勢について



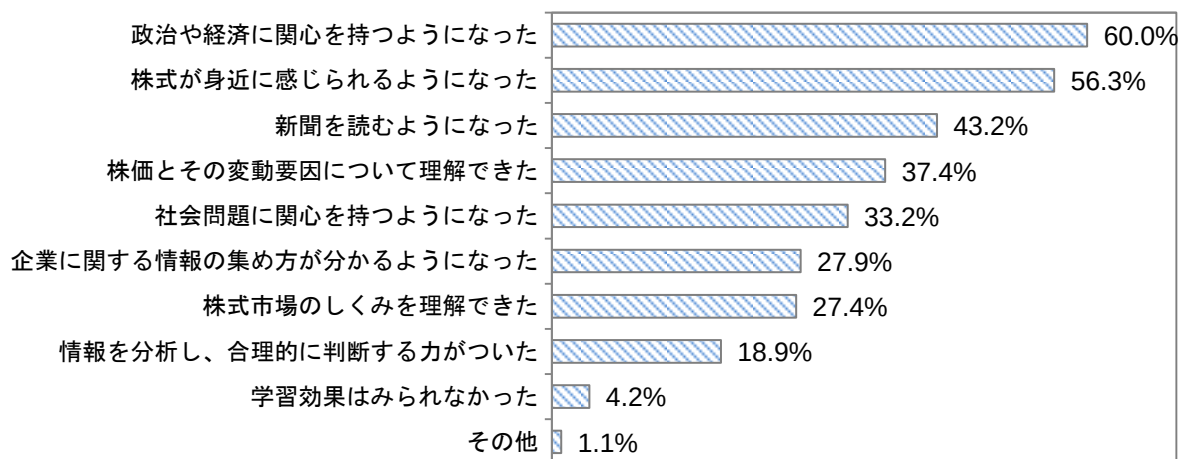
（６）株式学習ゲームによる学習効果について（複数回答）【回答数 190 校】

本教材を授業に導入して、どのような学習効果があったかについて尋ねたところ、「政治や経済に関心を持つようになった」60.0%（114 校）が最も多く、以下、「株式が身近に感じられるようになった」との回答が 56.3%（107 校）、「新聞（株式欄、政治・経済面、社会面）を読むようになった」43.2%（82 校）と続いた。

また、「株価とその変動要因について理解できた」37.4%（71 校）、「社会問題に関心を持つようになった」33.2%（63 校）、「企業に関する情報の集め方が分かるようになった」27.9%（53 校）などの回答があった。

そのほかに、「家庭で株式の話をする生徒も見られた」、「新聞を読むだけでなく、そこから自分たちの意見を発表できるようになった」といった回答も寄せられた。

（第 9 図）株式学習ゲームによる学習効果について



（７）提供教材以外に利用した教材等について（複数回答）

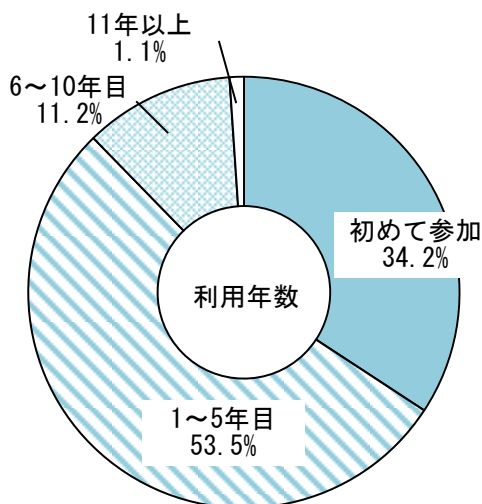
本教材を使った授業を進める上で、独自に利用した資料等について尋ねたところ、「新聞（記事の抜粋を含む）」が 38 校、「インターネット（株式情報、各新聞社、金融関連、各企業）のサイトなど」が 10 校、「自作のプリント」が 6 校であった。

大学になると、経済や証券市場論の教科書、実際の財務諸表等などを利用するところもあった。

（８）株式学習ゲームの利用年数について【回答数 187 校】

本教材の利用年数について尋ねたところ、「初めて参加した」が 34.2%（64 校）、「1～5 年」が 53.5%（100 校）、「6～10 年」が 11.2%（21 校）、「11 年以上」が 1.1%（2 校）であった。

（第10図）株式学習ゲームの利用年数について

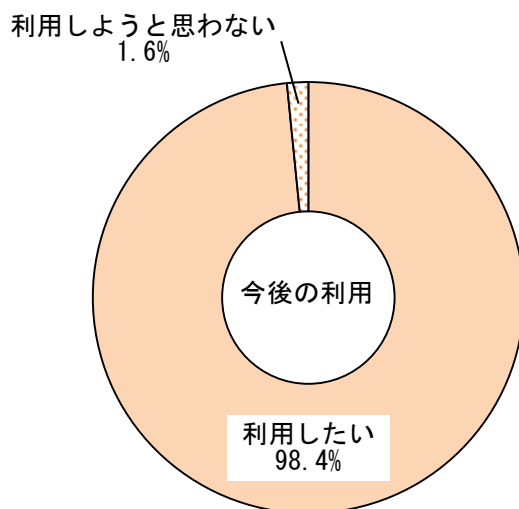


（９）今後の参加予定について【回答数 189 校】

本教材の今後の利用予定について尋ねたところ、「利用するつもり」と回答した学校が 98.4%（186 校）に及んだ。

一方、「利用しようとは思わない」と回答した学校は 1.6%（3 校）あり、その理由としては「教科担当が変わるため、次年度の担当者次第」という回答があった。

（第11図）今後の参加予定について



参考：以下は、アンケート調査と併せて、参加校の先生方から提出していただいた株式学習ゲームについての意見や感想等の概要である。

I. 先生方から見た生徒の反応、感想等（自由記入：194 校中 97 校より回答を得た）

1. 全体的な生徒の反応、感想等

先生方から見た生徒の反応についての全体的な感想としては、「株式が経済や社会の変化に影響されていることを理解したようだった」、「新聞やニュースに目を通すようになった」、「今後の社会人としての生活に役立つものだった」、「実際に起きている社会・経済の問題などが株価に影響を与えることを知り、保有している企業の関連ニュースなど、時事問題を身近に感じるようになった」、「授業中に株式や経済について積極的に発言するようになった」などの回答が寄せられた。

昨年度と同様、生徒たちは本教材を通じて、新聞やテレビなどのニュースに関心を持つようになり、経済・社会・企業について興味・関心を持って学習した様子が見えてくる。

（第Ⅰ表）

先生方から見た全体的な生徒の反応、感想等 (原文を要約後、区分) ※複数回答	回答数 (校)	学校別 回答数内訳		
		中学	高校	大学他
経済や社会のことが分かった（関心を持った）	25	7	15	3
新聞やニュースに関心を持つようになった	24	7	15	2
楽しく取り組むことができた	11	5	5	1
企業について興味・関心を持った	10	5	4	1
苦労した・難しかった	9	4	5	0
良い体験ができた	9	2	4	3
結果や順位が出るのが楽しみだった	6	2	3	1
みんなと協力してできた	6	4	2	0
もっとやりたかった・勉強したかった（またやりたい）	3	0	2	1
株式や経済が家族との話題になった	2	2	0	0
実際に株式の取引をしているようだった	1	0	0	1
就職活動に役立つと思った	1	0	0	1

2. 株式についての生徒の反応、感想等

実際に参加した生徒からは、「経済や政治が株価の変動に影響を与えていることを体験的に理解することが出来た」「株価の動きをチェックするためによく新聞を見るようになった」、「海外のニュースは今まで関係のないもの、テレビの中の事と思っていたが、日本の株価にまで影響する可能性があることがわかり、視野が広がった気がする」「地元の企業の株価が上がると、地元経済が良くなっているようで嬉しい」「自分で収入を得られるようになったら実際に株式を購入してみたい」といった感想が寄せられた。

また、「新聞・ニュースを見るようになり、経済について親子で会話するようになった」という感想も生徒から寄せられた。

（第Ⅱ表）

先生方から見た株式についての生徒の反応、感想等 (原文を要約後、区分)	回答数 (校)	学校別 回答数内訳		
		中学	高校	大学他
株式などの仕組みが理解できた	23	7	15	1
株式に興味・関心を持つようになった	12	3	8	1
株式投資は難しい	10	3	6	1
株式投資は面白い・楽しい	9	4	4	1
将来、実際に株式投資をしてみたい	6	1	5	0
株式を身近に感じる事ができた	6	1	4	1
将来、株式投資をしようとは思わない	4	1	3	0

Ⅱ. 先生方から寄せられた感想等（自由記入：194 校中 107 校より回答を得た）

1. 授業に取り入れた効果・感想や課題など（抜粋）

- ・「生徒の感想を見ると予想以上に政治や経済、企業への関心を持ったことをうかがえる。企業の活動や自分たちの将来の進路選択を考えていく上でもいいきっかけとなった。」
- ・「生徒たちは大変興味関心を持って取り組んでいた。色々な情報を収集し、仲間と熱心に話し合い真剣に考え行動、決断する力がついた。」
- ・「今年度の実施期間では、アベノミクスの影響でほぼすべてのチームの収益がプラスとなったが、リスク面を繰り返し確認しながら、安易な感覚を持たせないように留意した。」
- ・「株式を通して企業の事を知る良い機会となった。就職活動の良き知識となり、役立った。」
- ・「最初は自分が知っている企業が中心だった投資の対象が、ニュースを見聞きし、判断した上で投資をするように変わっていくのが見て取れた。」
- ・「株価が市場での取引に応じて日々変動する様子から、生徒たちなりにその理由を推測したり、今後の値動きを予測したりするようになっていった。」

（複数寄せられた効果・感想など）

- | | |
|------------------|------|
| ・今後も継続して活用していきたい | 21 校 |
| ・有意義な授業ができた | 19 校 |
| ・有用な教材だった | 9 校 |
| ・楽しみながら学習できた | 6 校 |

（複数寄せられた今後の課題点など）

- | | |
|---------------------------|-----|
| ・インターネットの接続規制があった | 5 校 |
| ・指導が難しかった（生徒のモチベーションの維持等） | 3 校 |
| ・売買エラーがわかりにくい | 3 校 |
| ・授業時間数、回数不足 | 2 校 |

2. 授業での工夫やアレンジなど

工夫している点やアレンジしている点については、「新聞やニュース等の時事問題を取り上げた」という意見が最も多く 20 校あった。また、プレゼンテーションを行ったと答えた学校では、「購入理由や資産状況を発表させた」、「パソコンでチャートやグラフを作成し、発表させた」といった学校があった。企業研究を行ったと答えた学校では、「企業の C S R 活動について調べ、投資先を考えさせた」や「企業研究を行った後、各企業に実際に連絡を取り、見学や出張講義をお願いしている」といった意見もあった。そのほか、生徒の興味・関心を高めるため、取引結果や順位を廊下等に掲示したり、教師も参加し順位を競ったりした学校や、対象を地元企業に絞って投資を行った学校もあった。

（第Ⅲ表）

工夫している点・アレンジしている点等 （原文を要約後、区分）	回答数 （校）	学校別 回答数内訳		
		中学	高校	大学他
時事問題（新聞、テレビのニュース、インターネット）を取り上げた	20	8	7	5
プレゼンテーションを行う	14	1	9	4
売買結果を記録させた	13	5	7	1
企業研究（C S R・ニュース・企業見学など）	10	3	4	3
独自のワークシート等を使用した	9	0	8	1
取引結果や順位を掲示した	8	2	4	2
レポートを提出させた	6	1	3	2
売買理由を明確にさせた	6	1	4	1
株式や株式会社に関する講義を行った	5	3	1	1